

令和6年度 学校経営方針

新潟市立山の下中学校

【教育目標】	「知識を求め 情操を豊かにし 進んで実践する生徒」
【スクールポリシー】	「山中魂」～ 正義 勇気 土根性 ～
【小中一貫して目指す子どもの姿】	「目標をもって生活し、自分の考えを相手に伝える子ども」
【生徒会スローガン】	「あじみこ+そ」を実践する生徒

1 当校の教育観 ※学習指導要領の自校化

激しく変化する社会の中で、課題に対してプラス思考を働かせながら、「自己のもつ資質・能力や知識、情操、体力を駆使して、納得解を生み出すことができる生徒」を育む。

そのために、次の3点を柱とした教育活動・運営活動を推進する。

- 自ら考え、判断し、新たな価値や知識を生み出す「個別最適な学び」
- 支持的風土を醸成し、共に学び合い、支え合い、高め合う「協働的な学び」
- 「目標設定・アウトプット・活動形態の工夫・振り返り」を取り入れた活動

2 当校の実態と今後の方向性

(1) 当校の実態【成果①～④・課題⑤～⑧】 ※R5学校評価の結果

- ① 授業の取組がよく、話し合い活動では自分の考えを相手に伝えることができる。
- ② 基本的な生活習慣が定着し、正しく判断して行動する規範意識が育っている。
- ③ 支持的風土が醸成され、達成感や自己有用感を実感できる生徒が多い。
- ④ 人間関係が構築できない生徒や不登校生徒に、きめ細かな個別対応ができています。
- ⑤ 個別の支援を要する生徒への対応では、適切に対応できない場面がある。
- ⑥ 学習内容の確実な定着と学習意欲が低い生徒に対する具体的な取組が必要である。
- ⑦ メディアコントロール力の育成と家庭学習習慣の定着が継続的な課題である。
- ⑧ 部活動の方向性や在り方について、令和7年度末まで話し合いを継続し、実施する。

(2) 今後の方向性【令和6年度の方向】 ※R5成果の継続・課題の改善

- ① 主体的に学習し、かかわり合いを取り入れた授業を継続する。
- ② 生徒が校則について考えたり、「山中魂（スクールポリシー）」「あじみこ+そ」を意識したりすることで、正しく判断し、行動する力の育成を継続する。
- ③ 支持的風土づくりの醸成と「目標設定～振り返り」の取組を継続する。
- ④ 関係づくりが苦手な生徒や不登校生徒に寄り添い、励ます対応を継続する。
- ⑤ 合理的配慮の提供や指導方法の工夫、関係機関との連携を継続する。
- ⑥ 生徒の興味関心を高め、「学ぶ楽しさやできる喜び」を味わわせる。そのため、研究主題に基づく授業改善のポイントを明確にし、研修を組織的・計画的に推進する。
- ⑦ 学び続ける資質・能力を育む。そのため、キャリア教育や進路学習を通して、自分の生き方を見つめ直し、将来の夢や目標を意識させる場面を系統的に設定する。
- ⑧ 部活動の在り方や地域移行について、部活動顧問会、運営委員会で検討を継続する。

3 目指す生徒像（令和6年度の重点項目） ※山中教育ビジョンの4つの教育部の目標

- | | |
|---------------------------|----------|
| (1) 主体的に学び合う生徒の育成 | (学力) |
| (2) 自立する生徒の育成 | (心と体) |
| (3) 個性に応じた支援とインクルーシブ教育の充実 | (特別支援教育) |
| (4) 望ましい人間関係を築く力の育成 | (支持的風土) |

4 目指す学校の姿 ※新潟市教育ビジョンの自校化

- (1) 生徒が主役の教育活動を推進するため、教職員が力を結集して協働する学校
- (2) 学校が保護者・地域と目標を共有し、連携・協働を通して信頼される学校
- (3) 生徒の資質・能力の育成と働き方改革を推進するため、教育DX化を推進する学校

5 目指す教職員の姿 ※市ビジョンの自校化

- (1) ワークライフバランスを図りながら、学び続ける魅力ある教職員
- (2) 山の下中学校に誇りと愛着をもち、生徒・保護者・地域に信頼される教職員
- (3) 笑顔とコミュニケーションを大切に、同僚性・協働性を発揮する教職員